

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立菅南幼稚園

令和 7 年 2 月

大阪市立菅南幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 高層ビルや交通量の多い道路に囲まれた場所にあるが、地域や保護者から十分に守られて生活している。予測不可能な危険にも備え、自ら健康や安全に関心を持ち、安心できる生活をつくり出していく力を養うことが必要である。
- 園生活に入るまでの子どもたちは、個人差はあるが、限られた人との関わりの中で育ってきている。本園でも来園者に出会うと、あいさつもできず、戸惑っている姿が見られた。さらに新型コロナウイルス感染拡大の影響で、園生活でも人との関わりが希薄になっている。そこで、感染症対策を講じながら様々な人と関わり、心温まる経験を積み重ねていくことで、人との関わりの点からも、子どもにとって幼稚園は安心して自己発揮できる場所となるようにする。
- 本園の子どもたちは、家庭で大切に育てられている。ただ、大人が意図を汲み取り過ぎる側面もあり、受け身になる姿がある。日々の様々な活動を通して、主体的にのびのびと遊び、多様な体験を積み重ねる中で学びの芽を育んでいる。
- 歴史や伝統のある地域に立地し、今年度、創立140年を迎える。広範囲からの通園も増えているが、地域からは「菅南地域の子ども」として地域の行事などに誘っていただき、温かく見守られて育っている。また、PTA活動も活発で、子どもたちのためにと園行事の手伝いにも積極的に取り組んでおり、地域との関わりも深い。子どもも保護者も、地域とのかかわりの中で、周囲の人たちに支えてもらっていることを実感している。新型コロナウイルスの感染拡大により、地域、家庭との連携した活動が少なくなっていたが、令和5年度に新型コロナウイルスが「5類」に移行したことにより、幼稚園、家庭、地域と連携した教育活動を積極的に進めていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しいと感じていますか」に対して、肯定的な「そう思う(だいたいそう思う)」を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「子どもは、心身ともに元気で主体的に遊んでいますか」に対して、肯定的な「そう思う(だいたいそう思う)」を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちのために、家庭や地域と連携し教育活動をしていると思いますか」に対して、肯定的な「そう思う(だいたいそう思う)」を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、一人一人を大切にし、安心できるよう努めていますか」に対して、肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○今年度の保護者アンケート調査で、「子どもは、教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」に対して、肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、家庭や地域などとの関わりを大切にしていますか」に対して、肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」を85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の幼稚園運営全体を通し、中期目標の達成に向けた3つの年度目標をすべて達成した。子どもが安心して園生活を楽しめるように教職員が連携して一人一人の子どもを大切にしていくこと、教師や友達と一緒に遊ぶ中で多くのことを学び、心身ともに健やかに成長していくように保育内容を工夫していくこと、いろいろな人と交流して親しみをもてるように家庭や地域などとの関わりを大切にすることに取り組み、成果が見られた。

次年度は今年度の課題を受け、一人一人の子どもの実態を把握し、幼児理解に努めて保育内容を工夫するとともに、教職員の共通理解を深め、子どもの豊かな育ちにつなげていきたい。

(様式 2)

大阪市立菅南幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ひとりひとりを大切にし、安心できるよう努めていますか」に対して、肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の充実】 交通安全に関する意識や態度を高める指導を工夫する。		B
指標 ・月1回以上、交通安全指導を行う。 ・学期に1回以上、保護者を含めた交通安全指導を行う。		
取組内容②【2 豊かな心の育成】 挨拶を交わす心地よさや大切さを知り、自ら挨拶をしようとする心を育てる。		A
指標 ・毎日、教師や友達と挨拶をする時間をつくる。		
取組内容③【2 豊かな心の育成】 互いのよさや個性を認め合える心を育てる。		A
指標 ・学期に1回以上、園内委員会を実施する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容① ・毎月の園だよりには交通安全の意識を高められるように、「心にとめよう！交通安全習慣」を記載し、啓発した。 5月「外に出るときはおうちの人と一緒に」、6月「登園・降園の時は、お家の人と手をつなごう」、7月「道路を渡るときは右左を確認しよう」、8・9月「幼稚園に登園・降園の時はお家の人と手をつなぎましょう」、10月「お家の人と一緒に道路の端を歩こう」、11月「お家の人と一緒に道路の端を歩こう」、12月「お家の人と一緒に帰りましょう。一人で走っていかないようにしましょう」、1月「飛び出し注意！家族みんなで気を付けよう」、2月「交差点、しっかりよく見て安全に・手をつなぎ、道路の端を歩きましょう」また、夏休みや冬休みのしおりでも、「自分で自分の命を守る」として交通安全・防犯の約束を記載し、定期的に交通安全を守ろうとする意識を高める機会を積み重ねた。 ・降園時に子どもだけで走って行く様子が多く見られたため、毎日声掛けをしたり個別に知らせたりして、日常的に交通安全について指導を重ねた。 ・1学期の始業式で、登降園時の安全について、「親子で一緒に歩く、保護者が自転車に乗っているときは子どもは一人で歩かずに自転車に乗る、公共の物を大切にするなどの約		

束を子ども、保護者とともに確認した。3学期始業式では、子どもの視野の狭さを写真で知らせたことで車道を横断するときの危険性を子どもと保護者がともに感じ、安全に気を付けて行動しようとする意識をもてるようにした。

- ・1学期の終業式に大阪府警察による交通・防犯安全指導、2学期の終業式に安パト隊による防犯指導を、子どもと保護者を対象に行った。親子共に約束を守って安全に過ごそうとする意識が高まった。また、7月に5歳児が天満警察に行き、警察官から交通事故の危険性や、防犯や交通安全についての約束などを聞いた。警察署で話を聞くことで心に残り、自分の身を守る意識をもつ機会となった。

取組内容②

- ・毎朝5歳児が「あいさつ当番」として通用門に立ち、登園する子どもや保護者に向けて挨拶をした。また、園長、養護教諭、事業担当主事も門に立って挨拶をした。5歳児や教職員と挨拶を交わすことで挨拶をする心地よさを感じ、3、4歳児も5歳児のように挨拶をしようとするようになってきた。例年2月下旬から5歳児の「あいさつ当番」を4歳児に引き継いでいる。5歳児と一緒に挨拶当番をすることで、挨拶をすることへの意欲と進級への期待につながっている。
- ・毎日、クラスで挨拶の歌を歌ったり当番活動をしたりしながら、教師や友達と挨拶を交わす機会を大切にした。また、教師や友達と顔を見て挨拶を交わす心地よさを感じられるように、機会を捉えて挨拶の仕方を知らせたり繰り返し挨拶の心地よさを受け止めたりした。日々積み重ねることで習慣付くとともに、当番活動で前に立って挨拶をする経験が自信となり、元気で笑顔で挨拶をするようになった。
- ・外部の方と関わる機会や保健指導、園外保育など、機会を捉えて時間帯や場面に応じた挨拶を知らせ、経験を重ねた。今年度は創立140周年を迎えるにあたって外部の方を招く機会も多く、挨拶をする習慣がついて、訪問する方に進んで挨拶をする姿が増えた。
- ・挨拶は決まった言葉であるため、外国にルーツのある子どもや支援の必要な子どもにとっても分かりやすく、自信をもって伝える姿が見られるようになった。

取組内容③

- ・支援の必要な子どもや外国にルーツのある子どもが増え、教職員間で子ども一人一人の実態や成長を伝え合い、支援方法の検討や共通理解を図ることが不可欠である。日々の保育の中で生じる指導上の悩みや迷いなどを日頃から話し合う時間をつくり、教職員で意見を交わしながら指導法を探っていった。園全体で子どもを温かく見て育てていくという教職員の姿勢が子どもたちや保護者にも伝わり、互いに個性を認め合えるクラスづくりにつながった。行事のアンケートでも、我が子だけでなく他の子どもの姿にも注目して、クラス全体の育ちを感じているような回答が多くみられるようになった。
- ・毎月、人権教育・外国人教育主担の教職員が市人教専門委員定例会に参加した。定例会や講演会で学んだ他園の悩みや実態、取組等の内容を園内の教職員で学び合い、人権の意識を高め、支援や取組の幅を広げた。
- ・2か月に1回程度、外部講師を招いて特別支援教育園内研修会を行った。個別の課題を明確にし、具体的な支援方法や育ちの目標など、指導を受けて実践することで、それぞれの育ちにつながった。個別の実態に合わせた支援方法だけでなく、クラスとしての取組についても指導を受けることで、クラスの中で育つ姿や、友達同士の育ち合いの姿が見られるようになった。
- ・外国にルーツのある保護者に伝わりやすいような配布物の工夫として、翻訳機で翻訳しやすいように手紙を簡略化したり、イラストを加えたりした。行事の取組や子どもの育ちについても、具体的に手紙を書いて伝わりやすいように工夫した。同じ外国にルーツのある保護者の協力も仰ぎながら、外国にルーツのある子どもの心情理解に努め、安心

して過ごしやすいように取り組んだ。

これらの取組により、令和6年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、一人一人を大切にし、安心できるよう努めていますか」に対し肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」と答える保護者の割合が100%であった。

今後への改善点

- ① 登降園時の安全について日常的に啓発を繰り返し、定期的に具体的な指導も行い、交通安全の意識をもてるように取組を重ねていきたい。交通安全の標語については園だよりに記載するとともに、クラスで子どもと確認するなど、より意識できる工夫も必要である。
- ② 引き続き、挨拶をする心地よさを感じられるように、日常的に取組を重ねていく。
- ③ 今後、子ども一人一人のより深い幼児理解と、個々の実態に合わせた指導の工夫がさらに必要になってくる。チームとして園全体ですべての子どもを育てる意識をもち、教職員間の連携を密にしていきたい。

(様式2)

大阪市立菅南幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「子どもは、教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」に対して、肯定的な「そう思う(だいたいそう思う)」を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 教職員の資質向上に努めるとともに、就学前教育カリキュラム等を活用し、保育内容を充実させる。	A
指標 ・年5回以上、遊びの記録を取り検討会をする。 ・年3回以上、園内研究会をする。 ・保育の打ち合せを週1回以上行う。	
取組内容②【5 健やかな体の育成】 ・遊びの中で多様な動きを獲得できるような保育内容を工夫する。	A
指標 ・週1回以上、体操や律動など意図的に体を動かす活動を取り入れる。	
取組内容③【5 健やかな体の育成】 基本的な生活習慣を身に付け、健康的な生活を送る態度を育てる。	A
指標 毎月、基本的な生活習慣に関する内容を保健指導に取り入れる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容① ・2ブロック研究部の研究主題「自分の思いを表現する楽しさを味わう幼児を育てるーかいたり、つくったりする中でー」につながる実践記録を年間5回とり、検討会を行った。子どもの姿を読み取り、教師の教育的意図をもった働きかけや環境構成を考え合いながら、多面的に子どもの育ちや保育内容を捉えることで学び合い、資質向上につながった。 ・外部講師を招いた園内研究保育を年3回実施した。6月に3歳児で指絵の具遊び、10月に4歳児で絵画活動、1月に各学年で劇遊びについて学んだ。討議会では保育の様子を撮影した動画を見ながら意見を交わし合った。客観的に見ることで、自身の保育を具体的に振り返り、討議会で得た助言を翌日からすぐ生かすことができた。また、1月の園内研究保育では、5歳児のみ午後保育にして全教員が参観できるようにするとともに他園の教員7名を招いて参観できるようにし、討議会を行った。表現遊びについて互いに悩みを出し合いながら、ともに考え、学び合える研究保育となり、大阪市立幼稚園の教員として育ち合う機会になった。 ・保育の打ち合わせは、職員朝礼時や保育後に行事等の打ち合わせ、反省会などを行うことに加え、日常的に子どもの姿や保育の進め方、悩みについて相談し助言し合った。教
--

職員全員で連携し、チームとして充実した保育活動に取り組んだ。保育案に関しては、「幼稚園教育要領解説」「就学前教育カリキュラム」を活用しながら週案や行事の計画案について打ち合わせを行い、保育内容の充実に努めた。

取組内容②

- ・毎月、体を動かす心地よさや楽しさを味わえるように、全園児で体操をする機会をもった。
4月「どうぶつ体操123」、5月「こいぼぼり体操」、6月「ペンギンのプール体操」、7月「ドンパン節」、9月・10月「オリンピック体操」、11月「どんぐりみつけたよドン」、12月「サンタッタ」、1月「秘伝ラーメン体操」、2月「こすれこすれ」
- ・律動で全身を動かす機会も大切にし、4月から取り組んだ。1学期は全学年で一緒に取り組み、異年齢で刺激を受け合いながら体を動かす楽しさや心地よさを味わうきっかけとなった。室内で行う際、律動は裸足で取り組んでおり、5歳児はリレーや綱引きも裸足で行った。裸足で体を動かす経験を重ねることで、足の指に力を入れて踏ん張る力がついた。
 - 3歳児…歩く、止まる、走る、しゃがむなど
 - 4歳児…ギャロップ、ケンパ、跳ねるなど
 - 5歳児…スキップ、亀、ブリッジなど
- ・各クラスの実態に応じて、体を動かす活動を保育に取り入れた。
3歳児は、1学期より靴の脱ぎ履き・椅子に座る・並んで歩くなどの生活に必要な動作を経験し身に付けた。また、表現遊びを通して、のびのびと体を動かす楽しさを味わった。
4歳児は、4月より「だるまさんが転んだ」や「鬼ごっこ」などのルールのある遊び、9月10月はサーキット遊び、11月以降は長縄や鉄棒、登り棒などの遊びを楽しみ、体を力強く動かしたり、バランスを取って柔軟に動かしたりする経験を重ねた。5歳児は、4月から竹馬や一本歯下駄、縄遊びなどに挑戦してバランスよく全身を動かし、加えて9月からはパラバルーンや綱引きなどで全身に力を入れて踏ん張ったり引っ張ったりする経験を重ねた。10月は木工遊びで金槌やくぎを使い、普段の生活では十分できない手首や指先の力を調節して動かす経験ができた。体を動かす経験が積み重なって、全身を力強くのびやかに動かすことができるようになり、怪我をすることも減った。
- ・2学期よりスプリングマットやパカポコなどの新しい遊具を取り入れ、巧技台の種類も豊富にしたり、玉入れカゴを新調したりした。室内でも十分に体を動かせるようになり、進んで体を動かして遊ぶ姿が増えた。
- ・運動会で各学年がしていた遊びに関心をもち合い、刺激を受けて様々に体を動かして遊ぶことを楽しめるようになった。4・5歳児と一緒に鬼ごっこをするなど、異年齢で活発に遊ぶことでより全身を動かして遊ぶ心地よさや楽しさを味わった。
- ・12月からは自分で色を塗ったコマに興味をもち、指先の力加減を調節しながら紐を巻いたりコマを回したりすることを楽しむ姿が増えた。

取組内容③

- ・3歳児は入園当初から、視覚物や音楽を用いて手洗いや歯みがきをしたことで、興味をもって取り組むことができた。習慣化するように絵カードなどを使って話をし、手洗い・うがい・歯みがきの練習をした。
- ・4歳児には紙芝居やパネルシアターを用いて、手洗い、うがい、歯みがき、朝食の大切さ、夏の健康、かぜ予防など、自分の体を守ることの大切さを知らせた。
- ・5歳児には生活リズムや排便の大切さ、よい姿勢などについてクイズを取り入れながら、自ら考えて関心を高められるような内容を工夫した。また、保健指導後も保育室に教材を掲示しておくことで、より理解が深まった。
- ・心情面の指導も行い、3歳児にはおもちゃやトイレを譲り合って使うこと、4・5歳児

には「ふわふわちくちく」の絵本を通して、心や言葉に関する内容を取り入れた。

- ・歯みがき指導や食育講演会、保護者会などで家庭との連携を図った。野菜カードや朝食レシピを作品展で掲示したところ、「とても参考になりました」との声が聞かれた。
- ・ゲームやユーチューブを長時間する危険性や時間を守ることの必要性を保健指導で子どもたちに伝え、保護者会で保護者に伝える機会をもった。健康カレンダーのコメント欄から、長期休業中も手洗い、うがい、歯みがきをしっかり継続したり、野菜を食べることを心掛けたり、お手伝いを頑張ったりなど、健康的な生活を送ったことが分かった。
- ・毎月の保健指導の後は、降園時に担任から内容を伝えたり、ホームページで具体的に知らせたりして、家庭への啓発に努めた。保健指導の内容を親子で話すこともあるようで、家庭でも取り組み、家族で生活習慣を見直し改善するきっかけとなった。
- ・学期末の保護者会では、子どもに行った保健指導を実際に保護者に見せて指導を行うことで、保護者の関心につながった。

これらの取組により、令和6年度末の保護者アンケート調査で「お子さんは自ら進んでうがい・手洗いをしていますか」に対し肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」が92パーセント、「お子さんは自ら進んで歯みがきをしていますか」は75%、「お子さんは自ら進んで規則正しい生活を送ろうとしていますか」は81%であった。

「お子さんは、教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」に対し肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」と答える保護者の割合は100%であった。

今後への改善点

- ① 今後も、子どもの育ちにつながる充実した保育を行えるよう、園内研究保育や実践記録などを通して多面的に保育を捉え、教職員同士学び合いながら資質向上に努めていく。また、教職員で連携し合いながら見通しをもち、計画的に保育を進めていく。
- ② 今後も引き続き、日常的に体を動かす経験を重ねられるように、育ちを見通しながら計画的に継続して取り組んでいく。
- ③ 寒い時期の手洗い・うがい・歯みがきは特にきめ細かく認め励ましていくことが大切だと考えるため、子どもが必要感をもって自らできるように、継続して取り組んでいく。

(様式 2)

大阪市立菅南幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、家庭や地域などとの関わりを大切にしていますか」に対して、肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」を85%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【8 生涯学習の支援】 子どもたちが絵本に多く触れられるように、家庭や地域と連携する。 指標 ・親子絵本デーを月 1 回以上、絵本ボランティアを学期に 2 回以上実施する。	A
取組内容②【9 家庭・地域等と連携・協働した教育推進】 いろいろな人と関わり、交流する経験を通して、周りの人たちに親しみをもつ。 指標 ・月 1 回以上、未就園児と触れ合う機会をもつ。 ・年 6 回以上、地域・学校と関わる機会を計画する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・今年度も引き続き、週末の絵本貸し出しと月 1 回の親子絵本貸し出しを行った。図書館からの配本も行い、教師が読み聞かせたり、子どもが自分で手に取って見たりするなど各クラスで活用し、家庭にも貸し出した。
- ・保護者による絵本ボランティアを 6 月、9 月、10 月の 3 回実施した。保護者の温かい雰囲気のもと、絵本を読んでもらう喜びを感じる姿が見られた。また、毎週木曜日は、絵本ボランティアの保護者が絵本や絵本棚の整理をした。常に絵本を手に取りやすく選びやすい環境に整えられることで、絵本に親しむ姿につながった。
- ・6 月に北区の「絵本の会」の方による読み聞かせを行い、学年に応じた内容の大型絵本や紙芝居、パネルシアターを見せてもらった。11 月は、天満小学校の絵本ボランティアの方に絵本を読み聞かせてもらう機会をもった。12 月には、絵本作家のとよた かずひこさんによる講演や絵本の読み聞かせを行った。様々な方に読み聞かせをしてもらうことで、絵本を見る喜びを感じる経験となった。
- ・9 月に、年長児と西天満小学校との交流で、5 年生の児童に絵本の読み聞かせをしてもらった。年長児 1 人につき小学生 3、4 人ずつで個別に読んでもらい、絵本を通した触れ合いを楽しんだ。
- ・12 月からは、各クラスで絵本をもとに劇遊びに取り組んだ。それまでに絵本に親しんだ経験が積み重なり、題材となる絵本を読み解きながら、登場人物の心情を感じたり細かな描写に気づいたりする姿が見られた。
- ・3 歳児は、中国にルーツのある子どもが多い中、絵本ボランティアの保護者が劇遊びで取り組んでいる絵本を中国語で読み聞かせ、中国語でかいた絵本をつくってくださった。母国語の読み聞かせで内容を十分に理解し、楽しんで絵本に親しむことができた。

取組内容②

- ・未就園児活動さくらんぼクラブは4月から始めて月1～3回ずつ実施し、未就園児と保護者が楽しめる内容の工夫をした。4月は入園当初の様子をありのままに見ることで、入園時のイメージをもてる機会となった。活動中は、教職員が参加の保護者や子ども一人一人に声をかけ、保護者からの子育て相談に親身に答えることで、子育て支援に努めた。園児も、受付をしたり一緒に遊んだりする中で工夫をして声をかけるようになった。参加する未就園児の名前を覚えている姿も見られ、園児として未就園児と関わることが、子どもたち自身の喜びと自信につながった。
- ・7月は、七夕に向けて天神橋筋商店街、大阪取引所、天満警察に子どもたちがつくった笹飾りを飾ってもらった。5歳児は、大阪取引所と天満警察に笹飾りを見に行った。実際に訪れることで、地域の方が見守ってくれていることを実感する機会となった。
- ・9月は、菅南敬老会、敬老の日の集いを行った。菅南敬老会では地域のお年寄りの方、敬老の日の集いでは園児の祖父母の方が多く参加された。ふれあい遊びでは、顔を見合わせるとお互いの笑顔が溢れ、関わる嬉しさを感じる姿が見られた。お年寄りの方に喜んでもらうことで、自分たちが役に立つ喜びも感じる機会となった。命がつながっていることを感じながら、敬う気持ちを大切に作る経験ができた。
- ・9月、10月は運動会の取り組みとして西天満小学校に何度も訪れた。西天満小学校の先生と挨拶をしたり、卒園児や兄弟関係の小学生が声をかけてくれたりして先生や児童との関わることもできた。5歳児は、9月に5年生との絵本の読み聞かせによる交流も行った。直接関わる中で憧れの気持ちを持ち、小学校の雰囲気も感じながら、進学への期待をもつきっかけとなった。
- ・6月に天満中学校、11月に桜和高校、北稜中学校の職業体験を行い、地域の学校と連携して、中・高生に親しみ、他校種の関わりを楽しむことができた。
- ・6月、9月に桜和高校2年生が教育体験で5歳児対象に教育体験を行った。高校生の楽しい雰囲気の中、色々なゲームを一緒にして親しみの気持ちをもった。
- ・12月には、創立140周年の記念式典を行い、たくさんの地域の方や旧職員がお祝いに参列してくださった。地域の方に温かく見守られていること、大切に守られていることを実感する経験となった。
- ・12月は、140周年式典での天満中学校の吹奏楽部による演奏会、桜和高校の吹奏楽部による演奏会を行った。目の前で様々な楽器の音色の美しさや生演奏の迫力を感じ、演奏に感動したり楽器に関心をもったりする経験となった。5歳児は、刺激を受けて合奏に意欲をもって取り組む姿につながった。

これらの取組により、令和6年度末の保護者アンケート調査で「幼稚園は、家庭や地域などとの関わりを大切にしていますか」に対し肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」と答える保護者の割合が100%であった。

今後への改善点

- ① 引き続き、絵本に触れる機会を保障し、幼児が絵本を見ることを楽しんで親しみをもてるように、取り組んでいく。
- ② 未就園児活動は、今後も充実した内容を計画的に実施し、園児と未就園児との関わりを楽しめるようにしていく。また、地域の方に見守られていることを実感できるように関わる機会を大切にしていく。

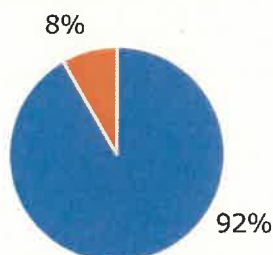
過日、本園の教育活動についてアンケートをお願いしましたところ、多くのご回答をいただきまして、ありがとうございました。集計結果を下記の通り、お知らせいたします。

皆様からお寄せいただきましたアンケート結果を、今年度の保育の振り返りに活用させていただきます。今後も教職員一同、力を合わせて子どもたちのよりよい成長のために努めてまいります。保護者の皆様のあたたかいご協力に感謝申し上げます。

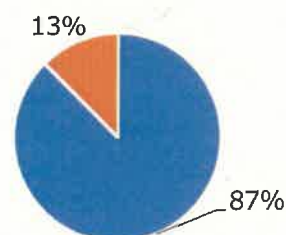
令和6年度第2回菅南幼稚園教育アンケート集計結果 (回答50人/51人) (回収率98.0% 1月29日現在)

■(そう思う) ■(だいたいそう思う) ■(あまり思わない) ■(思わない)

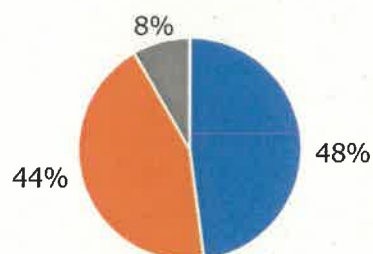
1. お子さんは、教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか。



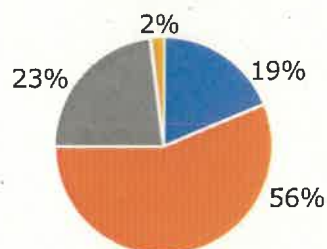
2. お子さんは、つくったり、かいたりすることを楽しんでいますか。



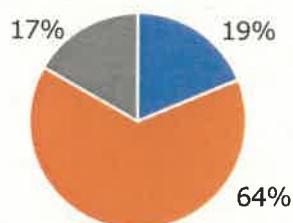
3. お子さんは、自ら進んで手洗い、うがいをしていますか。



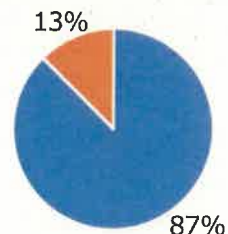
4. お子さんは、自ら進んで歯みがきをしていますか。



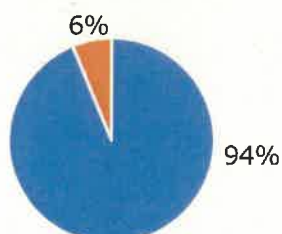
5. お子さんは、自ら進んで規則正しい生活を送ろうとしていますか。



6. 幼稚園は、一人一人を大切に、安心できるように努めていますか。



7. 幼稚園は、家庭や地域などとの関わりを大切にしていますか。



令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 菅南幼稚園 学校協議会

1 総括についての評価

○本年度の幼稚園の自己評価結果は妥当である。

年度目標の達成に向け、教職員が連携して保育内容を工夫することで、子どもたちが充実した園生活を過ごし、家庭や地域との関わりを通して育っていることが伺えた。すべての取組について、保護者アンケートの結果は目標値を達成しており、評価できる。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、一人一人を大切にし、安心できるよう努めていますか」の項目について肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。

○交通ルールを幼稚園で教えてくれることがありがたい。交通量の多い地域であるため、今後も継続してほしい。

○教職員が一人一人を大切にする保育をすることで、子ども同士もお互いの良さを認め合う姿が見られる。今後も継続してほしい。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○今年度の保護者アンケート調査で、「子どもは、教師や友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。

○保育内容の工夫や園内研修を行い、教育の質の向上に努めている。今後も大阪市立幼稚園の教育を広く発信し続けてほしい。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○今年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、家庭や地域などとの関わりを大切にしていますか」の項目について肯定的な「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する割合を85%以上にする。

○達成状況の評価については妥当である。

○今年度は創立140周年記念式典があり、家庭や地域、小・中・高校との関わりが広がっている。地域の方々や地域に親しみをもって様々な人と関わる中で、自分が大切にされていることを感じる心の育ちに繋がっている。

3 今後の学校園の運営についての意見

今後も、家庭や地域との連携を深め、人や地域とのつながりを大切にする教育実践を期待する。また、引き続き教職員が連携して子どもたちの学びを保障し、教育内容の充実と発信に努めてほしい。